

企業名：住友金属鉱山

レポート名：統合報告書 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

本資料 P2 から「住友の事業精神」が紹介され、その中でも当社の中心となる経営理念と経営ビジョンが端的に述べられている。このことから、本資料の一番初めの段階において当社がどのような基準をもって経営を進めていくのかという全体像をうかがうことができる。

また本資料 P24 から「2030 年のありたい姿」という表題の下、当社が目標としている経営理念及び経営ビジョンに沿った具体的なプランを多角的に提示している。具体的には、SDGs に対応した 11 の重要課題を選定しており、社会的な持続性や成長性といった観点を踏まえ、当社内外の安全保障を目指すべく取り組みを続けている。企業内部の安全性に関しては、「従業員の安全・衛生」や「多様な人材、人材の育成と活躍」など当社における労働者の安全性を維持し拡大していくよう取り組んでいく。一方、企業外部の安全性に関しては、「非鉄金属資源の有効活用」「気候変動」「重大環境事故、生物多様性」といった環境に配慮した対策を講じることに加え、「ステークホルダーとの対話」「地域社会との共存共栄」「先住民の権利」「サプライチェーンにおける人権」など、当社に関係する外部の人々の権利やコミュニティとの繋がりといった対人的な課題も考慮している。これらの各重要課題について、P66 からは個別に詳細を掲載している上、具体値である KPI を用いて説明していることから、計画の実現性も高いことがうかがえる。

以上より、本資料からは当社がどのような企業を目指しているのか、また掲げている目標はどのように社会的ムーブメントと繋がっており、具体的に各重要課題を解決していくためにはどのような対策が必要なのかといったことが包括的に理解できるといえる。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

本資料 P28 からは、「住友の事業精神が培った『7 つの競争力』」の表題の下、長年の歴史の中で培った 7 種の競争性を具体的に紹介している。特に、知的資本、製造資本、人的資本、社会資本、関係資本、財務資本といった分類でグループ分けがされた後に、各視点からの優位性を述べている。その中でも特に、住友という歴史の長さに起因する知的資本や製造資本、社会資本や関係資本といったセクターは優位性が際立っており、高度な技術力とそれを販売へと繋げる充実したサプライチェーンである「430 年磨き続けた次代を見据える技術」や、その技術をイノベーションに繋げ世界トップシェアへと拡大させる「顧客ニーズに寄り添い、応え続ける協働力」の競争力が特に優れている。

以上より、本資料からは当社のどのような部分が優れており、他社に対して競争優位性が

あるのか、また当社がなくなってしまうと社会や顧客にどのような影響を及ぼすのかということが明確にわかるという点で、この会社の競争優位性は容易に理解できるといえる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

本資料 P64 からは、「住友金属鉱山グループのサステナビリティ マネジメントアプローチ」の表題の下、当社の CSR 活動の継続方法について具体的な説明がなされている。当社では CSR 委員会を設置し、それぞれの活動の進捗やパフォーマンスの評価、活動計画のレビューなどの PDCA サイクルを回すことで CSR 活動を推進・維持している。この活動は、競争優位性の中でも特に社会資本・関係資本にカテゴライズされている「長期的視点に立ったビジネスパートナーとの信頼関係」「本業を通じて蓄積してきた地域社会との関わり」「顧客ニーズに寄り添い、応え続ける協働力」などの、当社が事業とともに社会貢献を進めていくような優位性に関して特に有効であるように考えられる。

以上より、本レポートでは CSR 活動の持続性を例に挙げたが、その点に関しては競争優位性には十分な持続性があるといえる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

本レポート 1、2 で述べたように、本資料 P24 からの「2030 年のありたい姿」では「従業員の安全・衛生」「多様な人材、人材の育成と活躍」、また本資料 P28 からの「住友の事業精神が培った『7つの競争力』」では「事業精神を共有する従業員と自由闊達な企業風土」でそれぞれ従業員の自由さと成長性を主張している。特に、2030 年のありたい姿については、本資料 P81 から詳細が記載されており、具体的な取り組みが述べられている。

以上より、本資料から当社は自身の人的資本の価値向上に十分プラスな影響を与えるであろうことが推測できる。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

本資料は必要な情報が一つに集められており、また写真や図表などを使用してビジュアルライズしているという点で、投資家が内容を理解し当社を分析する際に大変有用である資料であるといえる。しかしながら、我々大学生のような初学者や投資を始めたばかりの人々にとって、本資料は幾分理解し難いように感じられる。どのページもより具体値や詳細さを重視しているがゆえに情報量が多くなってしまい、一見した際に直感的に理解することが困難になってしまっているのではないだろうか。この問題の解決策として考えられるものに、当社が伝えたい重要な情報だけを簡略化して伝えるページがあげられる。具体的には、本レポートの 1 から 4 で述べてきたような重要だと思われる項目について、その詳細を省いたキャッチフレーズやトピックのみを視覚化してまとめるといった形式のものである。このような資料を追加することで、大学生のような初学者や投資初心者に対しても、報告書で伝えたいことをよりダイレクトに伝えられるのではないだろうか。